

# 佐渡米通信

# こめ〜る

2021年 **12**月号

発行日:2021年12月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部販売企画課 駒形・澁谷・渡辺(清)  
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

## 令和3年産米 品質・食味は良好!

お米の集荷が終盤を迎えました。コシヒカリは目標の1等米比率90%を達成致しました。令和3年産米は「特A」復活に向け「おいしい佐渡米研究会」を設置し、品質・食味向上の取り組みを実践して参りました。

作況指数は95(10月15日現在)となりましたが、品質・食味は良好に仕上がっております。

令和3年産1等米比率	
コシヒカリ	90.3%
こしいぶき	77.3%

※ 11/9 時点



## 世界農業遺産(GIAHS)認定10周年記念フォーラムが開催

世界農業遺産(GIAHS)認定10周年記念フォーラムが佐渡市のアミューズメント佐渡で、10月29~31日の3日間にわたって開催されました。

環境省の中井環境事務次官による記念講演では、「佐渡が取り組むトキや生きものを育む農業や活動は、地域循環共生圏のモデルになる」と評価頂きました。また、行谷小学校の児童によるトキの保護活動発表やパネルディスカッション、分科会が行われたほか、早朝のトキの様子を見るモニターツアーなどが行われました。



佐渡市立行谷小学校の児童が発表をしている様子



環境省の中井環境事務次官による記念講演

## 「土づくり」次年度の米作りスタート!

収穫が終わり、次年度に向けて土づくりが始まっています。米作りはまず土づくりからといわれており、土づくり資材の活用や稲わら・糞がらのすき込みによる「地力増進」が重要となります。

土づくりは、ケイ酸などの補給と有機物の分解をいかに促すかがポイントになります。分解する微生物の活動が活発になるよう適切な時期と空気を入れるようなすき込み方が求められます。



トラクターですき込んでいる様子

来年の春の準備はばっちりです!

## 収穫後の田んぼに朱鷺がいっぱい!!

収穫が終わった田んぼでは、朱鷺がイナゴなどを食べに飛来してくるようになりました。

稲刈り後の田んぼで、野鳥撮影に来島された野鳥愛好会の方たちは「佐渡には珍しい猛禽類や朱鷺がいっぱい見られた」と喜んでいました。秋が深まり空気が澄んで、青空に朱鷺の羽のピンク色が一段と映えておりました。



野鳥撮影をする野鳥愛好会の方たち

朱鷺を見ることが出来ました!!  
珍しい猛禽類「ケアシノリ」も見られて感動でした!



収穫後の田んぼに飛来してきた朱鷺

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。  
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>



JASADOTANBO